

授業科目名	【G】	言語圏文化論(英)	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2	
	【H】	言語圏文化論(英)			【H】1		【H】2	
	【I】	言語圏文化論(英)	その他参照	【I】1	【I】2			
科目区分	基本科目							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	ことばと世界、ことばと文化の関わり			担当者	大倉 直子			
授業概要	【概要】	ことばを知ることは文化を知ることであり、人間の心(認知)の仕組みについて知ることである。ことばという「窓」を通して心の本質に迫ってみよう。ことばの使われ方の謎に一つ一つ取り組みながら、人間がことばを通して世界とどのように関わっているのか、多角的に考察していこう。受講者には、自らの力で考えて問題を解く積極的な取り組みが求められる。						
	【到達目標】	(1) ことばと世界、ことばと文化に関する多様な現象を考察し、言語学(英語学)の基礎を理解する。 (2) ことばと世界、ことばと文化について書かれた文献を深く読解する力と批判的に考える力を養う。 (3) 恣意的ではなく論理的に議論を積み重ねていく力を培う。						
履修条件	第2回の授業では、今学期のテーマとなる講義を行うので、必ず出席すること。							
アクティブラーニングの方法	【-】	事前学習型	【-】	反転授業	【-】	調査学習	【-】	フィールドワーク
	【-】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【-】	対話・議論型授業	【-】	ロールプレイ
	【-】	プレゼンテーション	【-】	模擬授業	【-】	PBL	【○】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	◎ (よく当てはまる)						
他科目との関連性	外国語科目や教養演習(英語)を履修して、言語についての理解を深めることが望ましい。							
教科書	『思考する言語(上)―「ことばの意味」から人間性に迫る』 著者: スティーブン・ピンカー 訳者: 幾島幸子・桜内篤子 出版社: NHKブックス 出版年: 2009年 ISBN: 978-4140911303(版元で在庫切れのため、一部のコピーを配布。図書館で閲覧可能。)							
参考書	適宜、資料を配布する。							
評価方法	中間・期末テスト: 60%、宿題・授業課題等の提出物: 40%。(提出物は期限厳守。中間・期末テストの欠席には、欠席届の提出が必要です。無断欠席や正当な理由と認められない欠席の場合は評価対象外(0点)となります。公欠等の場合は、中間・期末テストのうち受験した方: 30点、小テスト・提出物: 40点、合計70点を100点満点に換算します。また、授業参加態度に問題がある場合は減点対象とします。)							
フィードバック方法	提出物の返却及び学習到達度の確認の際に、コメントと模範解答を提示する。							
評価基準	「評価方法」における得点が90点以上で授業内容に深い理解がみられる者を「S」、80点以上で十分な理解がみられる者を「A」、70点以上で基本的な理解はできている者を「B」、60点以上で理解の一部に不十分な点がある者を「C」とし、60点未満で理解に誤りが多い者は程度に応じて「D」または「E」とする。なお、中間・期末テストの無断欠席など、評価不能な場合には「F」とする。							

授業 科目名	【G】	言語圏文化論（英）	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
	【H】	言語圏文化論（英）			【H】1		【H】2
	【I】	言語圏文化論（英）	その他参照		【I】1		【I】2
授業回数	授業内容						
1	履修説明とイントロダクション:「こころ (mind)」とは何か、外界との情報のやり取りを支える内的な仕組み						
	予習:	英語と日本語の違いについて考えをまとめる(計90分程度)	復習:	学習の進め方の説明に基づいて計画を立てる(計90分程度)			
2	無限に続く文を生み出すしくみ						
	予習:	無限に続く文の例を考える(計90分程度)	復習:	無限に続く文を生み出すしくみを理解する(計90分程度)			
3	英語と日本語の音のふしぎ(1) 音の数え方						
	予習:	英語と日本語の音の違いについて考えをまとめる(計90分程度)	復習:	英語のシラブルと日本語のモーラについてまとめる(計90分程度)			
4	英語と日本語の音のふしぎ(2) 連濁						
	予習:	連濁を起こす例を探して規則の一般化を行う(計90分程度)	復習:	連濁を起こさない例を探して規則の一般化を行う(計90分程度)			
5	ことばは事象をどう捉えるか(1) 英語の可算名詞と不可算名詞が意味すること						
	予習:	英語の可算名詞と不可算名詞について調べる(計90分程度)	復習:	英語のmoveとgoの使われ方を理解する(計90分程度)			
6	ことばは事象をどう捉えるか(2) 有界と無界						
	予習:	英語と日本語の動詞のミスマッチについて理解する(計90分程度)	復習:	無界動詞を有界にする動詞句について考える(計90分程度)			
7	英語と日本語の音象徴						
	予習:	音象徴の例を調べる(計90分程度)	復習:	音象徴について英語と日本語の共通点をまとめる(計90分程度)			
8	【中間テスト】と復習						
	予習:	これまでの学習範囲を復習する(計90分程度)	復習:	解けなかった問題を見直す(計90分程度)			
9	ことばと文化(1) サビア=ウォーフの仮説(言語決定論)の考え方						
	予習:	教科書 pp. 247-254 を精読してまとめる(計90分程度)	復習:	教科書の議論を検証する(計90分程度)			
10	ことばと文化(2) サビア=ウォーフの仮説(言語決定論)の検証実験						
	予習:	教科書 pp. 267-275 を精読してまとめる(計90分程度)	復習:	実験の概要について理解を確認する(計90分程度)			
11	人間のことばとミツバチの「ことば」						
	予習:	動物のコミュニケーションのしかたを調べる(計90分程度)	復習:	動物と人間のことばの違いについてまとめる(計90分程度)			
12	アイルランドの言語交替・早期英語教育論						
	予習:	アイルランドの言語選択について調べる(計90分程度)	復習:	言語と文化についてまとめる(計90分程度)			
13	ことばと社会 語用論:ことばと人間関係(1):グライスの原理						
	予習:	教科書pp. 47-58 を精読してまとめる(計90分程度)	復習:	ことばに含意された意味の伝わり方をまとめる(計90分程度)			
14	ことばと社会 語用論:ことばと人間関係(まとめ)・ 期末テストに向けて						
	予習:	文字通り以外の意味を持つ文を作る(計90分程度)	復習:	課題(配布プリント)に記入する(計90分程度)			
15	【期末テスト】と、振り返り						
	予習:	これまでの学習範囲を復習する(計90分程度)	復習:	解けなかった問題を見直す(計90分程度)			
その他	この科目は、「英語の授業」ではありません。英語のスキル向上のための練習等はありませんので、理解した上で履修して下さい。人間はどのようにことばを ※G・H・I:【選択必修(力)】						